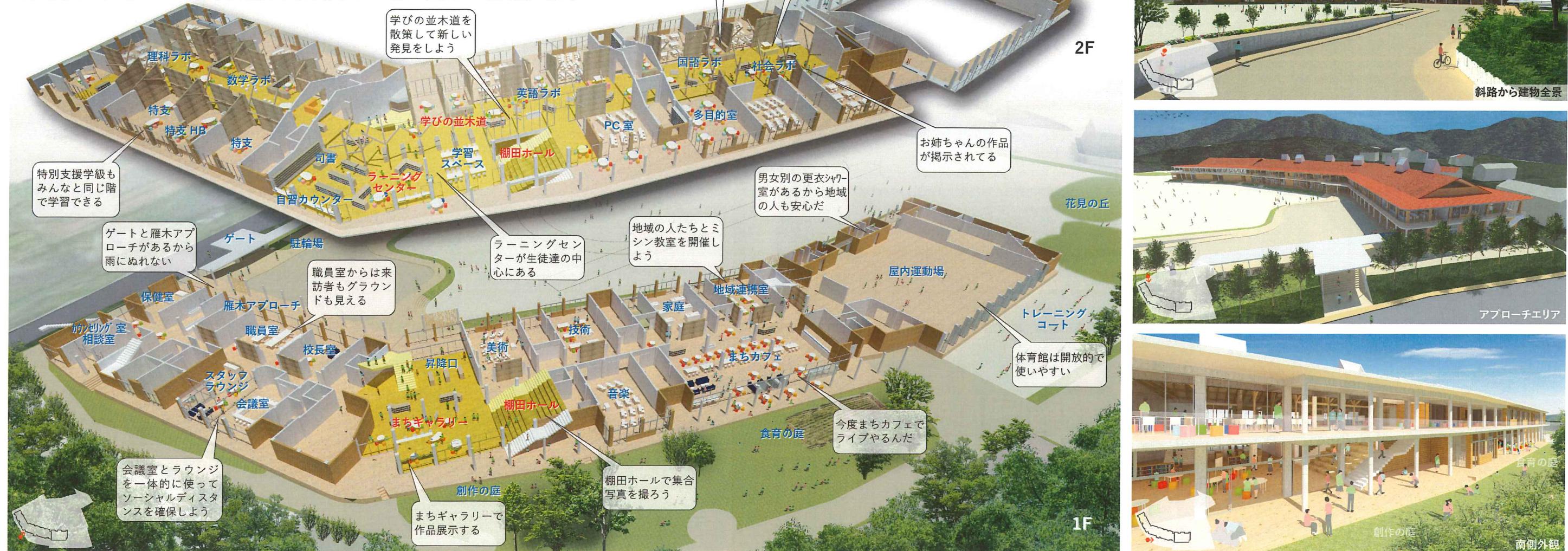


地域と共に成長していく石見中学校をみんなでつくる

これからの中学校には、国の定めた学習指導要領を踏まえ、地域独自の教育改革を実践していくことが求められます。私たちは教育施設の実績を通して、地域と共に成長していくような学校づくりの重要さを十分理解しています。世界遺産の石見銀山、石州瓦、山陰の厳しい自然など、石見の特徴や魅力を皆さんと共有し、この地域に愛着と誇りをもち、将来的に街の発展を担う生徒を、地域ぐるみで育てていくような石見中学校を皆さんと一緒に考えたいと強く願います。

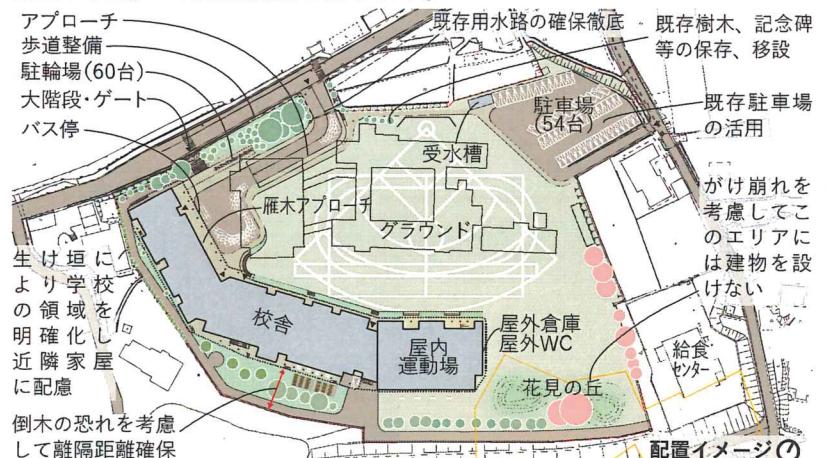


1. 生徒・教職員・地域住民の安全、安心、安定に配慮した学校づくり <配置計画><建設工事><地域開放・防災>

みんなが安全、安心、安定して学び・生活できる環境を、多角的な視点で整えます。新校舎完成後だけでなく、工事期間中も同様な配慮を徹底します。

①周辺環境への配慮と安全性を徹底した配置計画

隣接する住宅地や既存校舎、倒木や土砂崩れの恐れがあるエリアから十分な離隔距離を確保した建物配置とします。特に、土砂災害の恐れがあるエリアは、緩やかな緑化マウンド（残土利用）で明示し、日常的に災害への注意喚起を促します。



②安全・安心な交通・動線計画 / 歩車分離の徹底

様々なアプローチや給食搬入経路の歩車分離を徹底します。緩やかな勾配（3.5%）の車両動線とし、バス停を兼ねた雁木アプローチにより、豪雪時にも安全・安心な交通・動線計画とします。

■みんなの記憶に残るアプローチ

既存植生の活用や記念樹・記念碑移設によりみんなの記憶に残るアプローチとする。

既存正門を利用したアプローチ

安全性に配慮した緩やかなスロープ。バス停を職員室前に計画。（基本設計で道路レベルのバス停設置も協議）

大階段・ゲート

工事車両出入口を活かして、門扉を兼ねた屋根付きゲートをつくる。積雪時の階段利便性に配慮。

大階段・ゲート

工事車両出入口を活かして、門扉を兼ねた屋根付きゲートをつくる。積雪時の階段利便性に配慮。

スケールバス動線

大階段・ゲート

アプローチ（緩やかなスロープ）

雁木アプローチ（緩やかなスロープ）

駐車場

既存校舎建設

既存校舎解体撤去

既存校舎

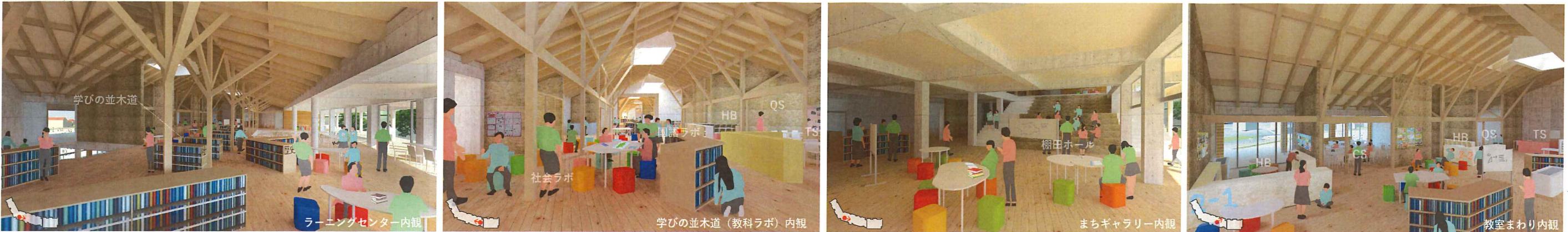
新校舎建設

新校舎

既存校舎解体撤去

既存校舎

新校舎建設



2. 学びを育て、多様な交流を創出する学校づくり

<屋内空間><地域開放・防災>

地域の方々の目に触れやすい1階に創造と発表の場となるアート系教科ゾーンをまとめ、2階にラーニングセンターを中心に文系教科・理系教科ゾーンをまとめます。教科間の連携と多様な交流を誘発する教科センター方式に適した学習環境を整えます。

①<特性><連携><展開>という学びを育てる平面構成

各教科の<特性>を生かし、ゾーン毎の<連携>がしやすく、ゾーン間の<展開>を誘発する平面構成です。

2階 学びを育てるラーニングセンターを中心

に特別支援・理数系・文系教科ゾーンを配置

1階 交流を育むアート系教科ゾーンを中心管理・地域交流ゾーンを配置

2F

1F

アート系教科

文系教科

理系教科

特別支援

運動場

屋内

教科交流

管理諸室

アート系地域

教科

地域

交流

2F

1F

②心の安定に配慮した断面構成

1階に管理諸室と地域連携室、2階に生徒の拠点と教員スペースを配置した見守りにより、心の安定に配慮した断面構成です。

教室 / ラーニング センタ

管理諸室

地域連携

③ラーニングセンターを中心とした「学びの並木道」

ラーニングセンターや各教科ゾーンは、並木道のように木の架構が連続し、高窓から木漏れ日が落ちる空間です。この「学びの並木道」が多様な交流を創出する舞台となります。

学びの並木道

ラーニング センタ

保健室

地域連携

アート系教科

文系教科

理系教科

特別支援

運動場

屋内

教科交流

管理諸室

アート系地域

教科

地域

交流

2F

1F

④創造と発表の起点となる「まちギャラリー」と「棚田ホール」

昇降口に面した「まちギャラリー」と「棚田ホール」が多彩な活動を誘発します。

まちギャラリー

棚田ホール

アート系教科

文系教科

理系教科

特別支援

運動場

屋内

教科交流

管理諸室

アート系地域

教科

地域

交流

2F

1F

⑤多目的に使える「まちカフェ（ランチルーム）」

「まちカフェ」はランチ以外の時間帯に、様々な活動の場として活用できます。

まちカフェ

ランチルーム

アート系教科

文系教科

理系教科

特別支援

運動場

屋内

教科交流

管理諸室

アート系地域

教科

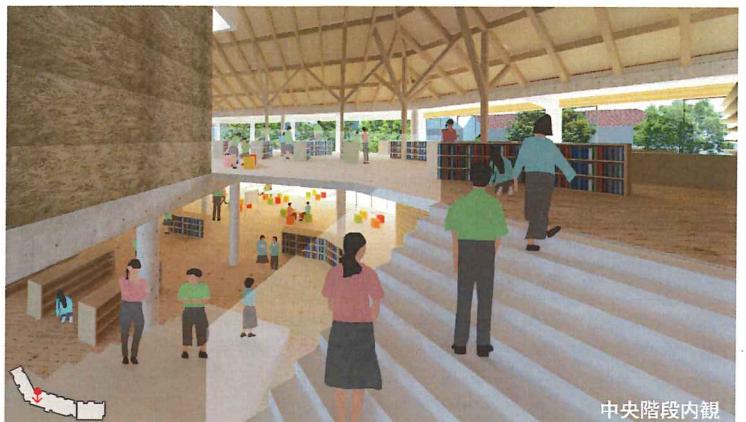
地域

交流

2F

1F





4. 地域と協働する開かれた学校づくり <地域開放・防災>

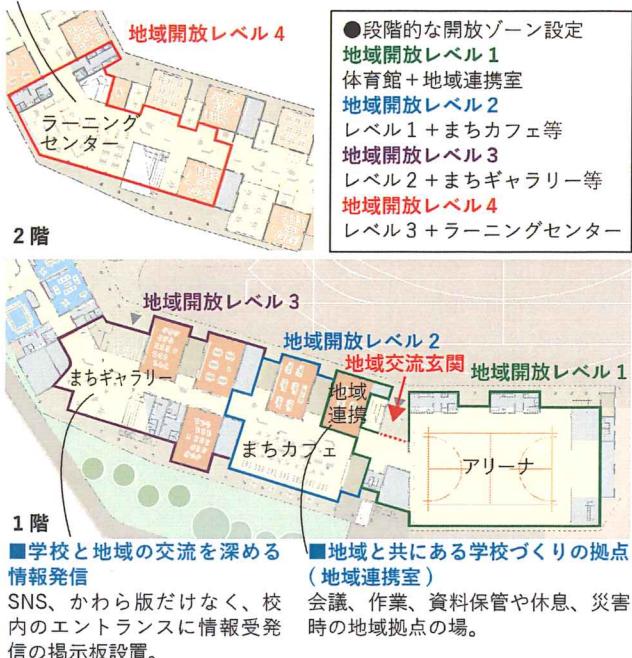
故郷に愛着と誇りをもつ生徒を育てるためには、地域との協働が必要です。地域の人々が気軽に立ち寄れる拠点づくりと防犯対策の両立を実現します。石見の歴史・文化・風土を継承し、明るい未来を共に考える生涯学習の場としての学校を皆さんと一緒につくります。

①地域開放とセキュリティの両立

日常的に地域の人々が気軽に訪れてもらうために、地域連携室を核とした地域交流ゾーンを1階にまとめます。また、段階的な地域交流ゾーンの拡張を視野に入れ、「まちカフェ」「まちギャラリー」「ラーニングセンター」へと繋がるような空間構成とします。

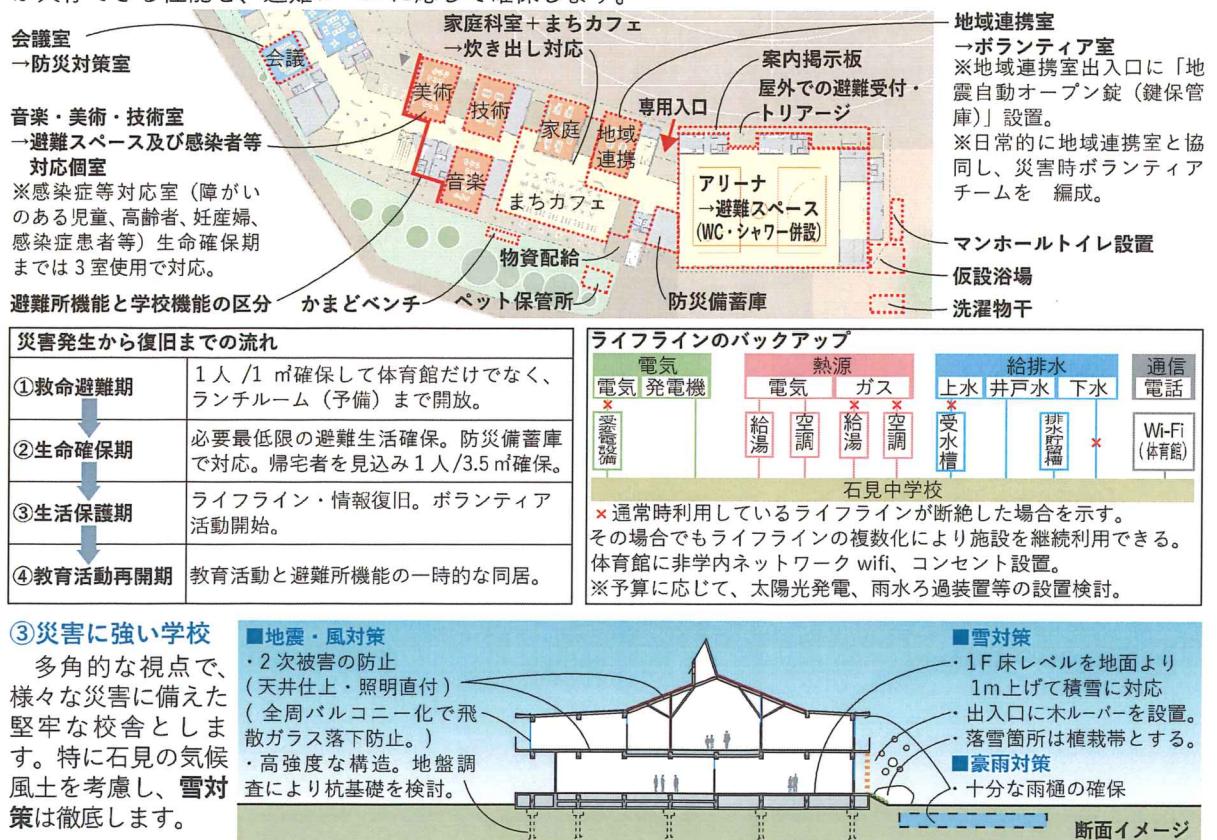
■段階的な地域交流を促す断面構成

2階のラーニングセンターを中心に、教科ラボなども段階的に地域開放しやすい空間構成。



②避難所の性能確保

東関東大震災時に生じた避難所（学校）の課題から学び、学校運営と避難所（想定一時避難民 1430 人）が共存できる性能を、避難レベルに応じて確保します。



6. 「一緒に考え、一緒につくる」を基本方針とした「綿密な対話」を重視する設計プロセス <地域開放・防災><設計プロセス> ※詳細は1次審査提出物「設計チームの編成方針」「業務の実施方針」も参照ください。

対話を重視した設計プロセス

邑南町に設計拠点を置き、皆さんとの対話を重視します。設計と WS を並走させ、模型やスケッチで建築イメージを共有し、誰もが参加しやすい設計プロセスとします。



基本構造・基本計画		基本設計					実施設計		工事		開校後	
設計	ワーキングショップ(WS)	R2.12月	R3.1月	2月	3月	4月	5月	実施設計	工事監理	アフターフォロー	アフターフォロー	
● 基本構造・基本計画の内容を十分に理解し、提案に反映。設計段階においても常に参考し進める (●: 打合)	実施済のアンケートや WS 内容を提案に反映。継続性を重視して基本設計以降の WS を行う	フロントローディング：初期段階に詳細な要望・設計条件、法的整理、必要な諸室やコストも含めた条件整理を行う	概算工事費：設計の初期段階を含む各段階において概算工事費を算出し後戻りの無い工程	早期に建築・構造・設備・外構等多角的な整合調整	余裕のある工程で十分な発注者の確認期間を確保	実施設計段階においてもフロントローディングの進め方、並行したコスト算出等により余裕のある工程管理を行う ※業務受注の場合	設計からの継続性を活かして工事監理業務を行う。工程、コスト、品質管理を徹底。現場常駐により円滑な業務体制 ※業務受注の場合	アフターフォローや利用実態調査、メンテナンス中長期計画の策定など、継続して学校運営フォローを行う。※工事監理業務受注				
● 条件整理	要望型 WS	反映 かわら版	反映 かわら版	かわら版	かわら版	かわら版	実施設計	工事監理	アフターフォロー	アフターフォロー		
● 配置ゾーニング	必要なモノやほしい繋がり、改善点を聞き、必要空間や条件を整理していく期間	準備期間 ① ②	準備期間 ① ②	平面計画	詳細計画	まとめ	実施設計	工事監理	アフターフォロー	アフターフォロー		
● 平面計画	関係者へのヒアリングを通して WS 開催の方向性を調整する。	活動型 WS	各 WS の内容は「かわら版」(ニュースレター)で共有。WS が行われない期間中も定期的に設計内容を共有	実施設計段階では段階的に「テーマ型」WS へ移行。同じ興味を持つ人々が集まることで、中学校と地域との協働のきっかけをつくる。(例：読書が趣味の保護者×家庭科の先生×漫画家の生徒=WS)	テーマ型 WS	具現化	工事段階では継続的に話し合いをもち、例えばテーマ毎に一緒に授業を考えることも。(例：ビオーネ農家の人生×家庭科の先生×スイーツ好きの生徒=フルーツケーキ講習会)	アフターフォロー	アフターフォロー			
● 詳細計画	そこで活動や使い方をより詳細なゾーニングや平面計画を検討する期間	活動型 WS	テーマに分かれ、それぞれの興味に合わせた深堀りをし、より詳細な検討をしていく期間	実施	これまでの活動を活かして、地域交流・協働を実施していく期間	実施	実施	実施				
● まとめ	内容をより反映しやすい設計初期段階に開催	まとめ	具体的な活動をつくりたり、関係性を育んだりしながら運営方法についても検討する期間	実施	これまでの活動を活かして、地域交流・協働を実施していく期間	実施	実施	実施				
● 確認期間		確認期間										

5. 環境や風土に配慮した学校づくり <景観・環境> <地域開放・防災>

石見の風景をつなぐ赤い石州瓦による屋根の景、豪雪地の雁木など、この地域の風景に馴染み、気候風土に適した学校とします。また、多角的な視点で意匠・構造・設備・外構を捉えた長寿命でメンテナンスしやすい建築計画とします。

①感染症対策の徹底

全ての諸室が外気に面し、自然換気のしやすい建築とします。冬季は、ピット内より PS 経由で穏やかな自然換気、夏季は高窓による排熱し、空調負荷軽減を図れる換気性能を確保します。オープンスペースを生かし、人員密度を抑えた授業運営や、昇降口、HB などに手洗い場を用意するなど、感染症対策を徹底します。

②邑南町らしい資源を生かした校舎

石州瓦、雁木、島根県産材、棚田の風景など、邑南町らしい資源を生かします。地域特有の文化を継承し、邑南町の人々に親しまれる学校を目指します。

石見の気候風土に適した寒冷地対応型の環境共生建築

